

## 産業遺産の保存問題\*

「産業技術史資料の保存と活用に関する基礎的研究」(報告)

金子 六郎\*\*

産業考古学会の重要な設立目的の一つは、産業遺産の保存に有る。従来行ってきた保存運動の中には成功例も失敗例もある。それらを紹介しながらその原因を考え、更に最近保存運動が難しくなっている理由を考察してみよう。

### 産業遺産の保存についての最近の条件変化

最近産業遺産保存の為に条件変化について、そのいくつかを取り上げて見よう。状況の好転は少なく、概ね悪化していると思われる。

#### 1) 金余り現象と地価の高騰

条件悪化の第一の元凶はこの地価高騰に直接現れる金余り現象であり、とくに激しいと思われる東京及びその周辺について展望してみる。

墨田区の隅田川沿い吾妻橋と、山の手線恵比寿駅のそばに都内でのビール会社の双壁ともいべき由緒ある工場があったが、共に地価の極めて高いこの地点で生産を続けることは採算に合わないということで、何れも大きなオフィスビルになってしまった。

特に恵比寿ビールの場合には産業遺産の保存に比較的熱心であり、以前古い煉瓦の建物を壊した時には、そこで使用されていたドイツ製のパンチレーター用の金具を地上に設置して記念物として説明板を付けて保存し、その他にも各種の資料を保存する等の配慮がなされており、工場が失われるのは残念であるが今後もこの姿勢を貫いて欲しいものである。

この例のほかにも、多くの工場が都内で生産活動を行うことが引き合わなくなって、地方に分散されるに伴って貴重な産業遺産が失われつつある。

#### 2) 産業構造の変化、軽薄短小化、三次産業化

川崎・横浜等の臨海地区で主として鉄鋼・化学・機械といった重化学工業の敷地が段々と浸食されつつある。例えば横浜における「みなとみらい21」計画によっても、いくつかの産業遺産の保存はあったが、多くのものが失われつつある。

#### 3) 世界的な地位の向上に伴う企業のアイデンティティの強調

従来外国からの技術導入に依存していた日

\* 1990年5月20日受理、産業技術史研究、技術資料、資料保存、資料活用

\*\* 産業考古学会

本の企業が、技術力の向上に伴い世界的にもその地位が向上してきた。それにつれて社員教育や社会的なPRもかねて企業アイデンティティーを強調するために、自社で使用した記念すべき機械や製品等の歴史的資料を保存して資料室や企業博物館を設立する傾向が高まっている。分類法によって異なるが、最近では全国約2000の博物館のうち企業博物館が約300にのぼると言われている。

#### 4) 地方文化活動の活発化と産業遺産保存との関連

例えば、北九州市ではかつて鉄鋼によって興った都市であることを記念して旧八幡製鉄所の東田高炉を中心として緑の広場を設けて産業遺産の保存が計られた。またビスコース人絹の日本での発祥の地として、米沢市では工場跡地に記念碑をたててこのことを伝承している。更に横浜において「みなとみらい21」計画の一環として、その敷地内に所在の旧三菱重工業横浜造船所の一号ドックが保存され、練習船日本丸がドック内に係留展示されている。そして横浜造船所で長年使用された高圧機械も保存されている。また横浜市は日本で最初の都市水道建設の地であることを記念して、立派な水道資料館が設置され市民に開放されている。

倉敷紡績の旧工場建物をそのままの形で宿泊施設としたアイビスクエアもこの例の一つに上げることが出来る。

上述の地方文化活動の活発化は、必ずしも産業遺産の保存にとって有利に働くとは限らず、地方分権の流れに沿って工場跡地を文化施設や先端技術工業の工場に転用する場合もあり、その転用の方向によっては産業遺産保存にとって非常に不利になる場合も多い。先の北九州市の東田第一高炉の場合には、新日鉄系企業の新しいスペースワールドという施設が開設されるにあたって、安全の為補修の必要があるとの理由で壊してしまう計画がな

されている。また足利市の日紡旧工場跡地も市で新しい工業団地にするため石造の由緒ある建物の主要部分が破壊された。

#### 5) 産業遺産の保存運動——その成功例と失敗例

産業考古学会が行ってきた産業遺産の保存運動の例を別表に示す。

この中の注目すべきいくつかの例について紹介し、有効な産業遺産保存運動の有り方について、幾分でも明らかにしたい。

##### 〔成功例〕

福岡県朝倉の三連水車を含む水車群は水田の揚水に使用されてきたが、筑後川の改修の一環として電動揚水に切り換え、水車は廃棄する計画が立てられていた。昭和54年地元有志が水車シンポジウムを企画し全国に保存を呼び掛けた。産業考古学会も協賛して、「水車談義」が行われ、産業技術史の吉田光邦氏による現場での講演もあって、盛り上がりを見せた。その後もこのシンポジウムは継続され充実した内容で全国から多数の参加者があり、この人達の働き掛けで筑波万博にこの三連水車の実物大の可動の複製が展示され世論に訴える大きな効果があった。そして最近国の重要文化財に指定され、建設省も水路計画を見直して保存が決定した。現在ではテレビのコマーシャルに用いられる程有名となっている。

島根県のたたら製鉄遺跡は多数残されており、日立金属㈱も博物館を建てたが、地元にも熱心な有志が居てその努力によって「たたら資料館」や「鉄の歴史村」が建設されている。たたらは日本独自の製鉄法であるということもあって、海外からの見学者も多く「鉄の歴史館」では製鉄関係の国際的な会合も可能な施設を設けている。

これらは全国的な運動や世界的な注目によって保存運動が支えられ、成功へと導かれた例である。しかし遺産の収集者が、この遺産

をより有効に「生かす」努力をすることによって、積極的な産業遺産保存と啓蒙に成功している例を大井川鉄道に見ることが出来る。

静岡県の大井川鉄道は、日本中からSLを収集し、これらができるだけ動態保存している。そして更に一步を進めて、平常の運行ダイヤに蒸気列車を組み込んで走らせている。この他戦時中にタイにいったC56型機関車を返還してもらってこれも動態保存し、新潟の赤谷鉱山が廃止になって鉄道も廃線になるとき、その線で使用していた輸入品の古いターンテーブルを大井川鉄道まで運んで設置する努力もしている。このような状況は、この鉄道の役員が産業考古学会の会員であり、遺産の保存に深い理解があることにもよるが、元来非常に過疎地帯を走るこの鉄道を、SLが走る鉄道と言うことで全国的に有名にし、その収益を増やす労使一体の努力の賜物である。産業遺産の一つの積極的な生かし方と考えることができる。

実際に稼働している事が保存に大きな役割を果たしている別の例は、新潟の石油と三河のガラ紡にみられる。新潟の中野氏という素封家が所有している石油遺跡は、現在も興味深い方法で極小規模であるが原油が生産されており、産業考古学会の要請に応じて現在石油公園というかたちで稼働しながら保存されている。一方三河の奥地にある昔からのガラ紡の場合は、現在でも特殊な太い糸の生産に使われており、その機械の一部は学会員の力によって東京農工大学繊維博物館に動態保存されている。

機械や装置の保存に比して当然困難なのは、土地建物特に都市部における土地の保存である。その中の成功例は、農業関係のお雇い外国人のケルネルが、東京大学・東京農工大学農学部の前身である駒場農学校で、指導を行った水田が残されて高校の実習田として利用されている。それを道路建設計画で破壊されるところを、住民と産業考古学会員の努

力で、計画は変更となり保存に成功した。小石川植物園にも上空を高速道路が横断する計画があったが、住民と産業考古学会員の努力で現在はさたやみとなっている。これらは住民の生活と密着した土地の保存成功例と考えられる。

建物は建築学会で保存すべき建物を指定し、努力を続け成果を上げておられる。本学会関係で例を上げれば、明治政府の政策で全国に繊維関係の模範工場が各地に建設された、しかし唯一残存していたのは足利市の模範撚糸工場である。比較的保存状態の良好なこの建物が道路の拡幅工事のため壊される寸前に、産業考古学会員の奔走により所有者の企業の協力が得られ、内部はアスレチッククラブとして利用しながら石造鋸屋根の美しい建物が保存されている。

さらに工作機械の展示館として著名な日本工業大学の工業技術博物館には広大な館内に町工場の建物を機械もろとも移築している。そして木造の古い建物の中で昔の旋盤やボール盤が実働している。これは建物保存の新しい有り方を示すものとして注目される。

産業資料の保存は、一度決定されれば永久にそれが確保される訳では無いので継続的な保存運動が必要であることに注意すべきであろう。

しかし中小坂鉱山や伊豆梨本の耐火煉瓦窯跡の保存は一時的な施設で恒久的なものとは言いがたいが、後世につなぐ意味は大きく改善でも遺跡の壊滅を防ぎ得た意義は認めるべきであろう。

完全な保存が達成できなかったとはいえ、住友ベークライト向島工場の煉瓦造工場の壁を記念碑としての一部保存や、千住製絨所の煉瓦塀の保存も成功の価値を認める必要が有る。

〔失敗例〕

成功例に比し失敗例はあっけないものが多い。それは保存運動の困難を雄弁に物語って

産業遺産保存運動その成功例と失敗例(産業考古学会に関係するもの)

〔成功例〕

所在地	遺産	成果
福岡県 朝倉	三連水車等	国重要文化財
島根県 糸原・吉田	たたら製鉄遺跡	施設建設
新潟県 新津	石油遺跡	石油の里公園
岐阜県 八百津	発電所	資料館
愛知県 三河	ガラ紡	機械一部博物館へ
静岡県 金谷	蒸気機関車等	S L定期列車運行
同 梨本	煉瓦窯跡	屋根道路設置
神奈川県 横浜	造船所	ドック・機械保存
同 川崎	製鉄所	パイプの博物館
同 同	同	トーマス転炉保存
東京都 渋谷	教育用水田	ケルネル田圃保存
埼玉県 宮代	機械町工場	日本工大博物館内に移築
栃木県 足利	模範捻糸工場	建物保存
同 同	織物工場	木村織物工場事務棟・工場棟保存
同 鹿沼	下野麻紡績	水力発電用鉄管発掘保存
群馬県 下仁田	中小坂鉱山	遺跡発掘・資料館
北海道 札幌	開拓関係資料建物	北海道開拓記念館・開拓の村

〔失敗例〕

山口県 萩	青銅砲造遺跡	破壊
岡山県 倉敷	旧下村紡績建物	破壊
新潟県 新井	艾工場	焼失
神奈川県 横浜	扇型機関庫	破壊
東京都 荒川	厚紙製紙工場	破壊
栃木県 足利	織物同業組合建物	破壊
同 同	旧日紡工場	工場棟破壊・事務棟保存
岩手県 釜石	25トン高炉	破壊

〔一部保存又は保存要望中の遺産〕

東京都 荒川	千住製絨所遺跡	煉瓦塀一部保存
同 墨田	住友ベーク工場	煉瓦壁一部保存
同 北	旧陸軍第一造兵廠	保存要望
同 同	醸造試験場酒造工場	保存要望
北海道 小樽	小樽運河	埋め立て一部保存

いる。萩の青銅砲鑄造遺跡や横浜高島機関区扇型機関庫は保存運動を本格化しようとした矢先に、それぞれの事情によって簡単に破壊されてしまった。また表に示した失敗例の中のいくつかは、保存運動を察知した所有者が早い段階で処分してしまったのでは？と疑われるものすらある。今後保存運動を行っていく上で留意すべき教訓であろう。

さらに留意すべきは保存あるいは復元作業において歴史的に、より意義のある形で残すため技術史家が果たすべき役割である。日本鋼管で保存していたトーマス転炉は、川崎の郷土資料館に移管されたがその設置にあたって炉をがっちり固定したために、見学者には回転軸等の働きが全く分からなくなり、萩の反射炉の復元も見た目には綺麗に作って実態とは異なった構造に「復元」されてしまった。これらはいずれも技術的な意味を十分に把握せずに保存・復元されたためにおこった例であり、保存・復元は一応なされているものの結果としてまことに不十分なこととなった例である。

また特に建物保存の場合最も困難な状況は、過去の重要産業であったため、その建物は都市部の中心に位置することが多く、しかも往々にして過去の重要産業は現在の不況産業となっており、その所有団体(企業)がそれを保存するだけの経済的余裕に欠けていることである。足利織物同業組合旧建物は目抜き通りにあり、再開発の対象となった。建物として優れたもので明治村で受け入れの意向があったが、移築の費用を織物組合が捻出できずついに取り壊されてしまった。

最後に問題となるのが建物や装置の構造上の強度の問題である。大型産業遺産の場合これが取り壊しの決定的な理由とされることが多い。既に述べた足利の旧日紡工場もその特徴であった大谷石の劣化による強度低下それに伴う安全の問題が、最終的には保存運動を

失敗させた。またこれからの大きな課題である新日鉄東田高炉の場合も、腐食による強度低下による危険が取り壊し計画の大きな理由となっている。強度の問題は継続的な保存によって防止できるものであり、また適切な補修を行うことによって解決可能な問題であり技術史家のみならず多種の技術者の参加による運動の展開が必要であろう。

#### 〔ペンディング〕

現在産業考古学会が保存を要望している中に、東京北区滝の川の醸造試験場酒造工場建物がある。この建物は日本橋の意匠を行いままた多くの官庁建築を設計した明治の先覚妻木頼黄(ツマキヨリナカ)の傑作であり、関東大震災にも生き残った実用的でしかも極めて美しい作品で現在でも現役に働いている。醸造試験場が官庁の地方分散化で移転することになったため、一部では取り壊してマンション用地にするとの声もある。産業考古学会ではこの地は幕末に反射炉や火薬工場が作られようとした由緒有る土地であり、醸造博物館として有意義に保存するよう要望している。

この他にも未解決の問題はいくつかあり、中でも東田高炉の問題が緊急の重要問題であることは言うまでもない。

#### 〔その他〕

保存に成功した場合でも、その中には担当の公務員が交代したり、保存に熱心だった社員が退職したりすると、取り壊されないまでも保存状態が粗末になっていく例がある。保存は一度決定されればそれで解決と言うものではなく、継続的に維持管理が行われるべきものであるから、産業遺産保存のための一層幅広い援助組織、保存の為の学問的研究等が必要となってきたと信ずる。

本研究の一部は、平成元年度文部省科学研究費補助金総合研究(A)(研究代表者：中岡哲郎、課題番号01102030)に負っている。